

あらかじめ申し上げます。議事日程の都合により、時間延長いたします。

一般質問に入ります。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） このたび、3件の、私は一般質問のことで市長にお尋ねいたします。

答弁が長くならないように一問一答に重点を置いて、きょうはじっくり話してみたいと思います。よろしくお願ひします。私のほうも二、三分で済むようにしとりますので、よろしくお願ひします。

通告に従い、市政一般について質問を行います。

林道網の整備でございますが、各団体等より整備計画の要望が上がってるとは思いますが、比田勝市政においては選挙前の指針として、林道網の整備という言葉は私は目にとめました。本日は、比田勝市長のこのことに対する取り組みを今後どのように考えておられるか、このことについてお尋ねを1点いたします。

2点目でございますが、西泊三宇田浜ホテルの建設について、この進捗状況について現在どこまで進んでいるのか、お尋ねをいたします。

最後に有害駆除対策事業について。本年度当初予算では、イノシシ、鹿の通常捕獲予算は1頭1,000円減額した9,000円を計上というふうになっております。

そしてまた、地区捕獲隊が捕獲したものについては、基本額にさらに2,000円を増額する旨となっております。このことに対する基本的な考え方、根拠についてお尋ねをいたします。

以上3点について、簡単に市長のほうから答弁を求めます。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 林道の整備についてということでございますが、答弁は簡潔にということでございますので、若干はしよらせていただきますけれども、まず林道網につきましては、林道、そして林業専用道、作業道の3つの区分に整理をされておりますけれども、この中の林業専用道の整備につきましては、長崎県林業公社、対馬森林組合との協議を行い、長崎県対馬振興局農林整備課の協力を得て、平成27年度から10カ年計画として、前半5カ年間で計画路線11路線を抽出した上で、対馬市森林整備計画に登載し、効率的な森林施業が実施できるよう、開設効果の高い路線を優先的に順次進めているところでございます。

しかしながら、計画路線の中には地権者の同意を得ることが難しい路線もあり、路線整備の進捗に苦慮をしているところでございます。

現在、市発注の林業専用道は、平成27年度1路線、平成28年度2路線の計3路線で、延長6.8キロメートルを整備中でございます。完成いたしますと、年間143ヘクタールの間伐が可能となります。また、平成29年度より新たに市発注の森林作業道を1路線0.6キロメートル

ルを整備する計画であり、補助事業として毎年1～2路線程度を事業化してまいりたいと考えております。

市といたしましても林業の振興、特に人工林の活用につきましては、林道網の整備なくしてはならないものと考え、効率的な森林施業を推進し、人工林の活用が容易にできるよう林業用大型車両の走行を想定した、安価で耐久性の高い林業専用道と、それに接続する森林作業道を組み合わせた路網整備を図り、林道密度の向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、2点目のホテルの誘致の件でございますけれども、上対馬町三宇田に予定されておりますホテルの誘致につきましては、ことし3月に東横インに事業者の決定をし、現在、東横イン側により建設・設計に向けたボーリング調査などの準備作業をしていただいているところでございます。

東横インによりますと、自然公園法に係る県との協議、建築確認申請などの手続を経た後、平成29年1月に地鎮祭、平成30年春ごろにオープンをしたいとの意向を伺っております。

3点目の有害駆除対策事業についてでございますが、捕獲補助金の1万円から9,000円への1,000円の減額は、平成27年12月2日の対馬猟友会理事会におきまして承認をいただいております。12月14日の全員協議会においても説明を申し上げ、3月定例会において予算の可決をいただいているところでございます。

平成28年5月10日に、捕獲補助金の増額に対して猟友会より要望書の提出があつていることは承知しております。このときと6月定例議会において申し上げておりますが、これらのイノシシ、鹿対策に対しましては全般的な対策を検討し、構築していくことが重要な課題であります。捕獲補助金の額についても、国、県また他の自治体の動向も見きわめながら、今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。済いません、それから捕獲隊推進の補助金の件で説明いたします。

平成28年3月8日に開催されました3月定例議会予算審査特別委員会におきまして、平成28年度の予算説明の中で、被害対策に対して自分たちの地域は自分たちで守ることを目的に結成されている地区捕獲隊に対して、1頭当たり2,000円を補助する捕獲隊推進補助金を計上し、現在の捕獲隊は5地区であります。説明も行き、500頭分の100万円を計上し、承認をいただいております。捕獲隊につきましては、6月議会で説明しておりますので省略いたしますが、捕獲されたイノシシ、鹿については、捕獲補助金の対象となり、補助金は協定書の中で免許所持者と地区とで配分を決めて、日々の被害対策に取り組んでおります。捕獲隊での捕獲補助金は、必ず有害鳥獣対策に関連する活動に使用することになっており、防護柵の補修、草刈りなど維持管理に必要な原材料費及び人件費、また、餌代、わなの購入費などとなっております。

今日、高齢化や人口減少により、地域活動が衰退している現状の中、地域で取り組むことによ

り、地域活動の再構築、また、捕獲従事者の労務の軽減にもつながり、獣害に強い地域づくりを目指していくことが捕獲隊の大きな役割と考えております。

しかしながら、捕獲隊の活動を継続していく中で、被害対策の維持管理には経費がかかるのが現状であり、この捕獲隊推進補助金の2,000円は、地区への補助金として新設をしている状況でございます。

今後も、現在活動されております捕獲隊の皆様のお力もいただきながら、捕獲隊の推進に向けて取り組んでまいります。よろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） まず、林道網の整備にいきましょう。今の説明では平成27年度から5カ年間を目途とし、11路線の整備を図るということで、いわゆる5者協議、県の林業部、市、森林組合、公社、それから営林署、従来ですね、そういうふうな方向で進めておるといふようなことでしょうか。それで、その都度5カ年以降また話し合いをするといふようなことですか。

市長に報告ちいいますか、申し上げますが、予算が非常に限られておりますから積極的なことが常にできることはありませんけども、林業公社の要望書の中でこの近年に利用間伐、45年に1回、それから65年に1回、利用間伐の整備に17路線、これも必要でありますといふような数字が書かれております。それから、森林組合がこれまた25路線上がっております。で、それぞれその延長が出ております。私は組合、あるいは公社の現実を目の当たりにしまして、確かにその5社の中で5カ年の11路線を進めた経緯はわかるんですが、この全体の計画を再度、財部市長のころに私は一般質問いたしました、26年の9月と12月。非常に、余り、前向きな答弁ではございませんでした、このことについて。それで私もがっかりいたしまして、少し市長にこのようなことでは関係者が落胆するんじゃないかという苦言も申し上げました。

しかし、その後、よく見てみたら27年度に1路線、それから28年度に2路線、これは私ももう少し詳細を把握してりゃよかったんですが、前向きな取り組みをされておったということで評価するものですが。先ほど申し上げました森林組合の数字、公社の数字、この11路線の中で私はかなりそれでもまだほかに検討の余地がないかという意見を聞いております。

それで市長、現状を申し上げますが、林業専用道の予算、これは2つございまして、メーター2万5,000円から5万円以内の100%補助。これは対馬市林業公社、森林組合、これは事業債になります。財源負担がそれで済めばです、100%補助になる、こういう一つの考え方。それを超える経費のかかるものは、国費を5割いただいて、県費が1割。ところがあとの40%が対馬市では地元が1%、そして対馬市が39%。この39%負担が非常に重いというふうに私は受けとめとります。ここらについて、市長の考えを林業の、林道の本数をさらにどんどん進め

るために、この39%に対する市の負担をどのように受けとめておるか、ここらについて意見を伺いたいと思うんです。ここの負担が大きいもんだから、一遍にことがやりにくいというふうには私は理解しとるんですが、その辺について、市長の考えをお願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この林道網の関係で補助が、国費が50%、県費10%、そして、地元負担を1%取りますので、市の負担は39%であります。それ、今、大浦議員さんがおっしゃられたとおりでございますが、この市の負担のうちの95%辺地債で充当することにしております。そして辺地債で充当したあとの80%が交付税で返ってくるというようなことでございますので、辺地債の枠が取れば、ある程度の事業はやれるものというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 今の辺地債の財源は広域的な林道、いわゆる部落間からが対象であって、突っ込み林道については該当しないんじゃないでしょうか。私はそう理解しております。そこのところを、担当部長でも結構ですが。どうですか、部長。

辺地債の適用は、集落間から集落間の間の広域的な林道、これは財源的には辺地債の70%じゃないですか、市長。返ってくるお金は、80は過疎債ですから。70だと思いますよ。

だから、広域林道は今の考えでいいと思うんですが、突っ込み林道はあくまでこの財源が使われんと思うんですよ。だから一般起債、建設債を適用というようなことになって、市の負担が大きいと。このように私は理解しておるんですが、林業部長、その辺市長は細かいことはわかりにくいかもしれませんが、あなたのほうの見解は。今のことは一致しとかないかとです。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 担当部長のほうに。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） 今おっしゃられるとおりです、市が林道として整備しよる分について起債がつくようになっております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 突っ込み林道っちゅうのはもうわかりますよね、先に行けんわけですよ。受益の山いっぱいあるけども。ところが、広域林道というのはこっちの集落からあつちの集落へ通すということになれば、辺地債の適用で7割返るという認識なんです。そういうことじゃないんでしょうか。

○農林水産部長（西村 圭司君） 今おっしゃられるとおり、道路と道路を結ぶについては起債が使われます。その突っ込み林道が、済いません、起債がつくかどうかについては、私のほうで勉強不足でわかっておりませんので。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そうですか。市長、現実の山の実態というのは、45年以降3割切らないかんとですよ。そして、65年たったらまた3割切って、残りが80年で切る、こういうふうなことに今の世の中なつとるそうです。非常に遠い話ですが。

そこにはどうしても山を切る段階では、森林作業道という、国のかなり高額な補助金と、長崎県が森林環境税をつけまして、これまた100%、その山切り等道つけは、メーター3,000円以内でできるんですよ。

ところがそこから下して幹線、いわゆる県道、市道、既存の農道等に、林道等に引き込む林道がないから、今それをしてくれんじやろうかということをおっしゃってます。それで、私もわからんことがあったんですけども、その補助金の一番負担のないメーター5万円以内の補助金、これは国が100%これを出すということですが、平成27年度まで森林整備加速化・林業再編事業補助金、その名称で100%お金が来よったそうです。そしてこれが、28年度に消えるだろうということであったんですが、ベニヤ板の合板・製材生産強化対策事業、この名称の補助金でまた切りかえてやられることになったそうです。そうしますと、これを使って森林組合、それから林業公社、対馬市もこれを活用できるんですよ、5万円以内であれば。ところがよく話を聞いてみれば、森林組合にその設計を組めるような人がおらない。あるいは林業公社においても、それに類似しておると。まったくゼロではないという話であるんですが。

ここの補助金の活用と、それから通常林道の市が39%どうしても持たにやいかん箇所の整理を、再度、私は、市長のその選挙、何と申しますか、自分が行政に対してやろうとする林道網の整備というふうな勢いの中で、再度その森林組合の25路線と林業公社の17路線の仕分けを1回してみたらどうでしょうか。

5年だけじゃなくて、とりあえずその要望箇所が本当にできるのかどうか。これ時間かけてもいいじゃないですか。木を切らんば絶対でけんということじゃなくて、2年や3年や待てるでしょう。だからそういうふうな要望路線を、ひとつ、何と申しますか、現場検討の上、5者協議の中で、もう一遍見直しをして、今の事業等にどう当てはめるか。一回そのことを、ひとつ市長、部長に指揮をしていただいて、この対馬をまとめていただきたいと思うんですが、ひとつ御意見を頂戴いたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この専用林道につきましては、答弁の中でも申しましたけども、まず確かにそういう要望箇所があるとは聞いております。ただしその中で、かなり同意をとるのが難しい路線もあるというふうに聞いております。ですから、この地権者の合意がきちんと得られたところは、私自身もまたこの計画の中に盛り込むことはやぶさかではないというふうに考えており

ます。

そして、先ほど説明の中でもありましたけども100%補助の分が、まだこれはあるんですけども、これは2万5,000円までです。それで協議の上であれば、5万円までは可能だということですけども、ただ絶対5万円まで大丈夫と言い切れんというような話も聞いております。そしてまた、対馬のこういった専用林道の場合はどうしても山が急峻な山でございますので、メーター当たり単価が、10万円を大方超えるような単価でございます。

そうしたときに、例えば10万円としたときは、国庫補助の事業で行えば、3万9,000円が市の負担ということになります。ただし、この100%補助の事業を使えば、10万円使えば6万1,000円、市の補助はもらえますけども、またその分が例えば5万円までもらったとしても、5万円の市の負担が発生するということになりますので、市といたしましては、できる限りこの林道開設事業におきましては、国、県の補助を活用してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 非常に前向きな答弁だと私は受けとめております。それで、皆さん、現場を常に見ておられて、そういう要望をつくっておられますから、5者協議の中で、もう一回言いますが、25路線17路線の全体の、検討を再度、今年度1年かけて、あるいは来年かけてそれはしっかりやっけていかないと、利用間伐の作業ができない。このように思いますので、ひとつしっかり取り組んでいただきたいと。特に部長さん、そういうふうな中で音頭をとって、ワンフロアですから、県の林業部とセットで今おるわけですから、そういう中で、ひとつ推進の母体になってほしいと、かように思います。よろしく願います。

林道関係、もう一つございます。

○議長（堀江 政武君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） 先ほどの林道の分は、突っ込みを含めて、全て辺地債で対象になるということで、辺地債の率は80%ということで、確認をさせてもらってます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それから、もう1点。

林道を開設して、雨とかあるいはイノシシの鼻で車が通られんようなところがかなりあるわけですが、そういうふうな林道網の既存の林道の整備というふうなことで、私も要望は聞いてもらってますが、例えば対馬市が1年間に林道の維持管理、これはどのくらいの予算を計上しておりますか。

市長がわからなければ、部長でも結構です。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 平成27年度の決算額で、林道維持補修費、約1,200万計上いたしております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 実は、財源的なことが地方交付税の算定の中に組み込みがなされとるそうであります。その場合、林業施設という言葉で林道の維持管理について国の地方交付税の算定額が1億1,000万を超えておりました。これは、そういうふうなことに充当できるものであるというふうに理解を私はしておりますが、ひとつ今後、今までは別としまして、そういうふうなことが対象になれば、寛容な対応を、私はお願いしたいと、かように思っております。

それと、一般林道の市町村が事業主体の場合には、災害復旧の適用は全て可能であるが、対馬林業公社等が施工した林道については、災害復旧の対象ではないという、この現実を私は聞いて、それに対する御意見は、市長、何かございます。

例えば、そこらあたりが、現場の中で收拾がつかんそうですよ。国費がついた災害復旧がゼロであるという。私もそれは対馬市の一つの行政判断だと思いますが、その辺の御意見を聞いて、質問のこの林業関係は終わってみたいと思うんですが。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 林業公社が整備したこの専用道につきましては、確かに議員さんおっしゃられるように、災害の対象ではないというふうに聞いております。

そういった中で、以前から協議が進められておりますけども、この林業公社の林道を市のほうに移管しても構わないというようなことで、担当のほうは協議をしているということでございます。ただ、今現在、こちらが移管で受け付けるためにも、きちんとした台帳等で、図面等の整理とか、現地の確認におきまして、きちんと整備をした上で市の規格に合った林道じゃないとこちらとしても受け入れられないというようなことでございますけども、そこら辺の対象路線の、調査をして、規定に合った路線であれば、市の林道に受け入れるということで、今後も検討してまいりたいと思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） よくわかりました。ありがとうございました。

それでは、三宇田浜のホテル誘致の進捗について次に展開いたします。27年9月18日の公募がありまして、2月19日、28年ことしの、4業者の提案をもとに審査会が2月の19日に審査の決定を下したというふうに報告がっております。その結果、途中、2業者が非常に高得点を上げ、いろいろな面から最終的には採決によって決定をしたと。それが6対4でA業者とB業者というふうなことで聞いております。私は3月の定例会の、今年、3月14日の一般質問において、このことについてどのようにその決定されたかということをお尋ねしたところ、

非常にその内容に自分としても悩んだ判断がなかなか決定しないと。最終日には、議会の最終日の18日にはそのことを決定したいというような一般質問のやりとりがあったんです。それで最終的には、この東横インに決定。審査会はその逆でありまして、株式会社理研ハウスというふうなことでございましたが、これが逆転したというふうなことでございます。きょうの進捗状況について聞く前に、東横インの三宇田浜の最終的な提案の形を私は確認したいんですが、市長のほうで資料がなければ部長でも結構ですが、最終的な施設の規模等について報告をお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） こちらのほうも、この三宇田のホテルの審査会の関係については、審査会の内容は非開示ということでございますが、部長のほうから公開できる分だけ公開させるようにいたします。

○議長（堀江 政武君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） 三宇田のほうに進出を決定いたしております東横インについてですけれども、233室の300名の規模でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） これは何階建て、事業費というのは提案の中にはございませんでした。

○議長（堀江 政武君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） 階層は8階であります。ただ、事業費については、あくまで提案をいただいたのは審査会用の提案ですので、この場での公表は差し控えたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そこは私もそれでとめます。そしたら、これは国定公園2種ですよね。これに対して、財部市長の方が挨拶の最後にこう書いています。「東横インさんにおかれては、御提案の事業計画の本質を大きくゆがめることなく県との協議に速やかに入るようお願いいたします。」

県の協議というのは、国定公園に建設するホテルの構造、そして景観、そういうふうな外からの見られ方、色合い、そこらが審査の対象になると思いますが、これを速やかにとすることは、3月の時点では4月以降早くやるように望みますと、こう書いております。私は8月の24日、対馬振興局の総務の担当係官に、どうなっておりますか言ったら、いえ、まったくその後応答もございませんというふうな話でございました。で、この辺につきまして、少し、時間も少ないんですが、認識をお互い、お互いといいますか、どのように市がしておるのかというようなことで、この遅れについてどう思われますか。協議の遅れ、どうでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうで聞いているところによりますと、平成29年1月に地鎮祭ということでございますので、これまでの間には県との協議等も終えて無事に地鎮祭にこぎ着けることになるであろうというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私はもっと心配していることがあるんですが、1番でいった業者が不採択ということで、その後4月以降に比田勝港湾の一部の土地に独自のホテルを建設するような計画を情報として聞いております。この内容については、私も最終的な規模はわかりません。一部、100人であるとかいうことは少し聞いたんですが、1期目の工事の中で、この動向について対馬市はどこまで把握されておりますか。この情報、この情報を私は見込まないと、東横インの建設も進みにくいと、そういうふうに理解しているんですが、担当部署としてどのくらいの把握をしておりますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 比田勝のほうのこのホテルにつきましては、私のほうも完全ではありませんけれども、大方の情報は聞いております。そういった中で私も市長に就任後、東京に行った際に東横インに挨拶に出向いたときに、このような話がありますというような報告も一応いたしております。ですから、東横といたしましても、どこまでつかんであるかわかりませんが、そういった計画があつて実際にもうホテル建設への計画が動き出しているということは、つかんであるというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は業界のことは最終的なことを言うだけの力はございませんが、現況の中で上対馬町の宿泊施設の人員は何人泊まれる数字かというのは把握されておりますか、上対馬町の数字。どちらでも結構ですよ。既存の施設です、既存。

○議長（堀江 政武君） 上対馬振興部長、園田俊盛君。

○上対馬振興部長（園田 俊盛君） 既存の施設は、ホテル、旅館、民泊、民宿を含めて19施設の435名です。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 上対馬町に今から300というふうなホテルの収容人員が東横インが行うと、こうすりゃもう700人です、730幾らか、735人。それに理研ハウスが仮に200という数字を、どうなるかわかりません。しかし、これが明確にしないと長期的にはいいとしても、スタートの時点で200人を超えるホテルがいきなり1年目からスタートするちゅうことは非常に、何と申しますか、当初の予想を超えるようなことじゃないかと。その中で状況を見て今の遅いその協議がその理由じゃないかと私は思っているんですよ。しかし、市長はいや

強気で、いや1月には地鎮祭をやるんだから理研ハウスが何やろうと300人のホテルは大丈夫よと、いうふうな考えでよろしいですね。そういうふうな自信を持っておると。私はそれが、少し足踏みしちよる、というふうに思っているんです。だから、そこらの調整、把握に時間がかかっているなど思っているんですが、対馬市の見解は強気でいきますが、それでいいんですね。よければ、私も心配はしないんですが、ただ市長、これで行けば1万、上対馬比田勝港に入港する船が最大で1万7,000です、一月。そのうちの旅館の8割計算して全部入れねばいかんくらいの数字になりますよ。現在の、現在の。そうしますと、厳原方面にお客が分散して行きますが、私は当面立ち上がりの中で非常に、何といいますか、思わぬスタートになるような気がします。そこを今見てるんじゃないかなと私は思っているんです。だから、この情報は私もわかりません、最終的には。理研ハウスさんの計画が。そのところが仮に両方取ればすごいことになります、この町にです。ただ既存施設の皆さんが大変その中で苦戦をするかもしれません、いろいろなことを考えないかんちやなかろうかと思えます。そこらあたりのことは少し市長、御意見を。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も先ほど申しましたように、就任後、東横さんのほうに御挨拶に行ったときに、東横さんのほうが申されるのは、要は東横さんは全世界に約250店舗ぐらいのホテルを持っていらっしゃいます。こういった中で、このホテルの中でこの対馬の2つのホテルの紹介をすることでものすごい効果が出ますということで、こちら辺はかなり自信も持っていらっしゃいました。そういうことで、この対馬のホテルについては、このホテルの各部屋にそういった対馬観光のパンフレット等を置いていくと、そうすることによってお客さんをまだまだ呼び込めるんですと、というようなことも話をされておりましたので申し上げておきます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長、参考までにお聞きください。27年度の1年間の比田勝港に入国された総数が13万8,000人。これは国内の港では第2位だそうです。第1位は博多港です。比田勝港が2番目です。国内全体ですよ、港の中で、外国人の入国。それとことしの5月、6月、この数字は比田勝港が1万5,800、博多港が1万2,800、6月が比田勝港が1万6,500、博多港が1万3,300。結局、その月は国内最大になったそうです。その港の外国のお客さんが入る1つの実績としては国内最大というふうな数字が出ております。そこまで港に人が上がったたり出たり。そしてもう1つ、ホテルの建設に伴い重要なことは、現在JRビートル、大垂高速のシーフラワー、それから、未来高速のコビー、この3艇で対馬に来ています。それにもう1つ大垂高速のシーフラワーⅡ、これが800という数字が、聞いとるでしょう、私も聞きました。未来高速がさらに400人乗りを就航させたいと来てます。だから、そのことを近々に解決するような方向をやることが大きな政治課題ですよ。そして今のホテルとこれを組

み合わせれば私は施設が2ついっても見込みは立つかもしれないと、私は見ているんですが、その辺に市長の腹のつもりはどうあるか、ちょっと聞かせてください。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、大浦議員さんがこう話されていることは、あくまで韓国からのお客様主体というふうに私も受け取りましたけども、東横インさんのほうはこの韓国の方だけじゃなく私も先ほど申しましたように全世界のホテルのそのブランド力を利用して国内客を呼び込みたいというような計画を持っていらっしゃると思いますので、それに沿った計画になるのではないかなというふうに考えております。そしてまたもう1点、この近々のうちに大亜高速さんや未来高速さんが計画されてあります船の大型化につきましては、振興局等とも協議を重ねております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 心配する方向にはないような答弁で、私も安心をいたしました。というのが、せっかく港が大きくなるということは上の北部振興に大きくプラスですよ、人が集まるということは間違いなく。それで、これは地元の商工関係の対応なんですけど、どのぐらいの店舗、何人ぐらい飯を食うところがあるかということは把握されていますか。現在、現況。

あ、いいです。商工会から聞きましたから。（笑声）

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 上対馬商工会の調査では、17店舗で870人が総数で入ると。しかし、そんなもんで受け入れるだけの規模ではなくて、かなり相当すごい対応を今後じわじわ求められると思います。その辺も担当部長さん、その観光振興、商工振興の中で取り組んでください。皆さんの思いやらそういうふうなことがどう描かれるか、ここらは課題です。ホテルはできた、船は来た、食うところがないじゃないかんですからね。その辺は問われるところです。

まだあるんですけども、例の、それからこれちょっと、市長、私は余り言うちやいかんと思っただんですが、理研さんを6対4で一応決まったけれども、市長が最終日に3月18日に苦慮の中でかえましたと会議録に載っています、その資料が。私、ちょっと余り言うていいかなというふうなことで申し上げにくいんですが、前市長が例えば東横インの責任者になるとかいうふうな噂を聞いたことがあったんです。多分間違いだろうと思います。私はそういうふうなことはあってはいけないと思いますし、そういうことをできるようなタイプじゃないと思っています。そこがちょっと引っかかったもんですけども、今の意見でとめます。噂は私はそうじゃないと思いますが、その辺は、ひっくり返したということについては自信を持ってやらないかんわけですから、その後のおつりがきちやいかんと思っています。それで私はとめますから、これは流してください。

それと最後に1分です。地区捕獲隊の助成のことにつきまして、一般の捕獲の奨励金は1,000円カットで9,000円になった、9,000円プラス2,000円という意味ですよ。そうですね。そうしますと、さっき言った理由ちゅうのが一般の免許資格を持った方も同じことなんです。ちょっとその辺の考え方について、もう時間がございませんが、前回は時間がなかったんですけども、幾らか理解しにくいところがあります。きょう、もう時間がありませんがやめますが、後で西村部長とじかに話し合いをしてみましよう。

そういうことで、もう50分が過ぎましたので終わります。

○議長（堀江 政武君） これで大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（堀江 政武君） 次は9月12日、定刻より本日に引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後4時06分散会

---